

菅原繁さん

Sugawara Shigeru



花泉町涌津
大正4年9月19日生まれ

繁さんは90歳頃まで葉タバコと水稲などの農業に従事しました。1941年に26歳でひさえさんと結婚し、子供2人、孫5人、ひ孫6人がいます。

趣味はカラオケで、歌うことが大好き。1日3食、好き嫌いせずしっかり食事をとります。好物はマグロの刺身。日常生活は、全て

自分で行います。居間でテレビを見たり外の景色を眺めるのが日課。長寿の秘けつは「我慢しないこととマイペースに日々を過ごすこと」と話します。

100歳の誕生日当日は、20人の親族や友人に囲まれながら「みんなに集まってもらってうれしい」と笑顔を見せました。

千葉良次さん

Chiba Ryoji



大東町鳥海
大正4年8月7日生まれ

1938年にチエコさんと結婚。同年、満州に出征し、戦後はリンゴの栽培など農業に従事しました。

100歳とは思えないほど足腰が丈夫。しっかりと自分の足で歩きます。今まで大きな病気にかかったことはありません。

誕生日当日は「大勢の親族から100歳を祝っても

らってうれしい」とにっこり。穏やかで、くよくよしない性格だという良次さん。人の話を良く聞くように心掛けています。

趣味は読書。日課は、日記を欠かさずに書くことです。「何年かかってもいいから、自叙伝を書き上げたい」と目標を話してくれました。

フェンシング三銃士 県勢初の表彰台



左から小川千尋さん、佐々木月さん、千葉朱夏さん

千葉朱夏さん(一関一高)、佐々木月さん(一関学院高)、小川千尋さん(同)の2年生トリオは持ち味のスピード、フットワークを存分に発揮し、9月28日、わかやま国体フェンシング少年女子フルールで県勢最高順位の3位入賞を果たしました。全員が国体初出場ながら、来年の岩手国体を担う世代として存在感をアピールしました。

今後の課題として、千葉さんは「プレッシャーに打ち勝つ精神力」。佐々木さんは「試合の組み立て方」。小川さんは「試合終盤の強固な守り」を得られるよう練習に取り組みたいと誓っていました。これからも三銃士の挑戦は続きます。

若松クラブ所属の卓球女子が快挙

8月に東京都で行われた第33回全国ホープス卓球大会で伊東明香さん(興田小)、佐藤瑠衣さん(東山小)、鈴木晶さん(同)の小学6年生トリオが決勝トーナメントへ進出し、同クラブ初の全国8強に輝きました。水城稔代表は「3人ともプレーに特徴がある。互いをカバーしながら戦っている」と分析。伊東さんは「うれしかった」と振り返り、佐藤さんは「仲がよく、とても明るいチーム」と特徴を話します。鈴木さんは「卒業までに開かれる大会でも上位に入りたい」と抱負を話します。週3回の練習と持ち前の明るさでつかんだ全国8強。さらなる飛躍が期待されています。



左から鈴木晶さん、伊東明香さん、佐藤瑠衣さん

Pick Up

アスリートの群像

わかやま国体や全国大会で、一関のアスリートたちが大活躍。新たに全国の舞台に挑む者も。彼らの熱い思いはとどまることを知らない。

国体・少年女子B50リレー自由形で7位入賞

9月に和歌山県秋葉山公園県民水泳場で行われたわかやま国体の水泳競技・少年女子B50リレー自由形で磐井中3年の千葉すみれさんが7位に入賞しました。千葉さんは、高校1年生も含まれる区分に出場。予選を26秒77の県中学新記録で6位通過し、決勝でも同じタイムを記録しました。



千葉さんは「泳ぎは80点。表彰台に登りたかった」と大会を振り返り「次の目標は、いわて国体で表彰台に登ること。来年は高校生。ターンのテンポが崩れないように練習したい」と先を見据えていました。

菊地・及川ペアが全国への切符つかむ



左から及川日菜さん、菊地怜奈さん

大東町猿沢スポーツ少年団に所属する菊地怜奈さん(猿沢小4年)と及川日菜さん(同)は9月に北上市で行われた第15回全日本小学生ソフトテニス大会県予選会に出場。小学生4年生以下の部で2位となり、来年3月に千葉県で行われる全国大会の出場権を獲得しました。スポーツ少ソフトテニス結成からわずか2年の快挙。

二人は大の仲良しでチームワークも抜群。「全国ではまず1勝。カバーしながらがんばりたい」と意気込みます。同スポ少で監督を務める怜奈さんの父・昭弘さんは「二人は元気が持ち味。堂々とプレーしてほしい」と願っています。

高知で行われる全国大会に出場



左から千葉、佐藤(琴)、堀川、佐藤(瑠)、石川(敬称略)

11月に高知県で行われる全日本卓球選手権大会カデットの部に5人の選手が出場を決めました。

カデットの部は、14歳以下の部と13歳以下の部で争われます。9月の県予選会で佐藤瑠衣さん(若松小・東山小6年)が13歳以下女子個人の部で優勝。石川凛さん(一関小・萩荘小6年)は準優勝。14歳以下女子個人の部で千葉満月さん(川崎中2年)が準優勝。男子ダブルスで堀川隼杜君(一関小・厳美小6年)が優勝。女子ダブルスで石川凛さんが優勝、千葉満月さんと佐藤琴実さん(卓心小・厳美小6年)のペアが準優勝に輝き、全国大会の切符を手に入れました。

重ねた歳月、刻んだ年輪

百年目の寿

大正・昭和・平成一。

3つの時代を駆け抜け、歩んできた1世紀の軌跡。

4人が紡いできたそれぞれの100年のストーリー。

たくさんの人たちの笑顔に迎えられる

100歳の誕生日を迎えた4人を紹介します。

千葉アイコさん

Chiba Aiko



一関市末広町
大正4年10月10日生まれ

1933年に18歳で勝見さんと結婚し、子供4人、孫9人、ひ孫3人がいるアイコさん。48歳から18年間民生委員を務めるなど、地域に貢献してきました。

趣味は編み物。1日に2個も編むというアクリルタワシは、近所でも評判の一品です。

料理も得意で、小学校の

給食委員を務めたことがあるほど。アイコさんが作る「ナスのずんだ和え」は千葉家のごちそうです。

長男の幹雄さん(81)は「8人きょうだいの長女だけあってしっかりもの。責任感が強い」と話します。誕生日当日は、16人の親族に囲まれ「今までで一番幸せな日」とほほ笑みました。

千葉千代子さん

Chiba Chiyoko



室根町矢越
大正4年8月16日生まれ

1933年に仁雄さんと18歳で結婚した千代子さん。働き者で、80歳半ばまで農業に従事しました。

体が丈夫な千代子さんの長寿の秘けつは、たくさん趣味を持つこと。編み物や裁縫が得意で、新聞や雑誌を読むことが日課です。プロ野球中継や大相撲が好きで、よくテレビ観戦をしま

す。百人一首は全部の句を暗記するほどの腕前です。

千代子さんは「100年、気ままに過ごしてきただけ。祝ってもらえてうれしい」とにっこり。長男の東さんは「100歳になっても、驚くほど丈夫で働き者の母。末永く元気でいてほしい」と話してくれました。大好きな家族との会話も元気の源です。